

令和８年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立表郷中学校長

令和８年４月２３日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は３年生で、国語、数学、英語の３教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、生徒の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率（英語はＩＲＴスコア）の比較】

教 科	全国平均 正 答 率	下回って いる	やや下回 っている	ほぼ同じ	やや上回 っている	上回って いる
国語	６３．９％					○
数学	５７．０％	○				
英語	４９９点	○				

※中学校英語はＣＢＴ（コンピューターテスト）のため、「ＩＲＴスコア」になります。

「ＩＲＴスコア」とは国際的な学力調査で採用されているテスト理論で、この理論を使うと異なる問題から構成される試験の結果を同じものさし（尺度）で比較できます。なお、標準点は５００点となっております。

【国語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使い方に関する事項	63.0%		○			
情報の扱い方に関する事項	70.4%					○
話すこと・聞くこと	63.9%					○
書くこと	67.4%					○
読むこと	59.7%					○

【考 察】

- 全体的に全国平均正答率を上回る結果でした。特に各領域の自分の考えを述べる設問において、無解答率が低く正答率が高かったのは、普段の授業の中で、資料を活用して、考えを書いたり話したりする活動に継続して取り組んだ成果と考えられます。
- 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、全国平均をやや下回りました。特に、文法の既習事項を組み合わせる設問や、文脈に応じて言葉を使い分ける設問など、知識の定着を要する内容に課題が見られます。小学校の既習内容も含めた基礎・基本の復習や、より多くの言葉に触れることで言語感覚を磨く学習課題の検討など、指導方法を工夫していきます。

【数学：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領 域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	67.8%			○		
図 形	48.7%	○				
関 数	54.8%		○			
データの活用	53.5%	○				

【考 察】

- 「図形」「関数」「データの活用」の領域が、全国平均を下回りました。特に、筋道を立てて考察したり、数学的に表現したりすることに課題があります。授業の中で、課題解決に向けての見通しをもたせる場面や自分自身の考えを伝える場面を設定して、数学的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫していきます。
- 確率を求めることを苦手としています。問題の内容を理解し、起こりうる場合の数を樹形図や表などを用い、すべて書き出す力を身につける指導に重点を置いて取り組み、起こりうる場合の数を的確にとらえ表現する力を高めていきます。

【英語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

※英語については、公表されている問題が全体の5割程度であり、国語や数学のように領域の正答率が提供されていないことから、考察のみ記載いたします。

【考 察】

- 全体的に全国平均を下回りましたが、その中でも日常的な話題について答える問題については、全国平均を上回っている問題もありました。基礎・基本の定着を図るため、教科書内容の理解を目標に進めていた成果だと考えられます。今後1、2年生の内容を織り交ぜながら既習事項にくり返し取り組んでいきます。
- 応用力が求められる問題に関しては正答率が低く、授業の中で自己表現活動をより多く取り入れ、活動の中で多くの英文や問題に触れることで総合的な力を高めていきます。

令和8年度 全国学力・学習状況調査 質問紙調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立表郷中学校長

「全国学力・学習状況調査」では、学習や生活の状況について質問紙による調査も実施しましたので、一部ですがその結果及び考察をお知らせいたします。

特に、生徒の家庭学習の取組や授業の様子に関する調査結果を公表し、学校と家庭・地域の協力体制を強化していくことを目的としています。

この結果を、ぜひご家庭でも子どもさんと一緒に話し合っ、家庭生活の見直しに役立ててくださるようお願いいたします。

- 1 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

		できている	どちらかといえば できている	どちらかといえば できていない	できていない
中 3	全 国	27.4	50.8	18.6	2.7
	表郷中	25.5	52.9	19.6	2.0

(単位 %)

【考 察】

- 「できている」と「どちらかといえばできている」を合わせると、肯定的に答えている生徒は約8割おり、ほとんどの生徒が、分からないことをそのままにせず、自立的に学習を工夫する習慣が身についています。
- 今後は、タブレット端末などICTの活用や、友人とともに学び合う場をさらに授業の中で設けるなど、具体的な学び方の選択肢を提示し、自分に合った学び方の工夫を自分自身でできるよう支援していきます。

- 2 授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

		3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	全くしない
中 3	全 国	8.9	21.2	31.5	19.5	11.5	6.9
	表郷中	3.9	15.7	49.0	17.6	13.7	0.0

(単位 %)

【考 察】

- 「1時間以上」学習する生徒の割合が全国平均を上回っており、「全くしない」生徒の割合が0%のことから、全生徒に基本的な家庭学習習慣が定着していることがわかります。
- 家庭学習習慣が身につけている一方で、2時間以上学習している生徒の割合は全国平均を下回っており、学習の量に課題があります。今後は量を多くするとともに、「与えられたものをこなす」段階から「自らの課題意識に基づいて学習を進める」段階へ移行できるよう、進路目標をしっかりとめ、家庭学習の時間と質の両方を高めていけるよう支援してまいります。

- 3 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
中 3	全 国	29.3	49.7	17.2	3.2
	表郷中	27.5	64.7	5.9	2.0

(単位 %)

【考 察】

- 多くの生徒が学習した内容を理解しようとする意識が身についていることがわかります。「生徒間での話し合いを通した学び合い」に関する質問項目でも肯定的な意見を答える生徒の割合が高い結果となりました。生徒同士が、互いにわからないことを安心して教え合えるような環境作りを継続していきます。
- 授業において生徒自身が自分の言葉でまとめる場を設定しています。学習においてどのように考えたのか、自分の考えがどのように変容したのか、また、学習を通して「何ができるようになったか」や「次にどんな課題を解決したいか」を自分で整理し、主体的に次の学習目標に向かって取り組める生徒を育成していきます。

- 4 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。

		当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
中 3	全 国	49.0	43.4	5.0	1.4
	表郷中	76.5	23.5	0.0	0.0

(単位 %)

【考 察】

- 肯定的な回答が全国平均を大きく上回り、否定的な回答が0%でした。このことから、日頃から生徒同士が協力して学習に取り組もうとする基盤が良好に形成されていることがわかります。今後も、生徒同士が互いを認め合い、助け合う関係性を継続できるよう支援していきます。
- 否定的な回答が一切見られないことから、わからないことを安心して質問できる心理的安全性が高い環境にあることがわかります。今後はさらに話し合いの質を高めることができるよう指導に努め、より深い学びが実践できるようにしてまいります。